

2021 年度入学宣誓式 式辞

雪の降ることもあった冬も終わり、春爛漫の今日、京都薬科大学へご入学されました皆さん、おめでとうございます。これまで入学生の皆さんを慈しみ育ててこられたご父母やご関係の皆様も、さぞお喜びのことと存じます。

COVID-19 禍での不自由な日々を耐えて、努力された学部入学生 374 名、大学院入学生 11 名の皆さんをお迎えすることは、本学のみならず、薬学界にとりましても大きな喜びであります。土屋理事長をはじめ、法人役員、教育職員、事務職員、そして京薬会、教育後援会の皆さまとともに、お祝い申し上げますとともに入学式を 2 年ぶりに挙行できましたことを嬉しく思います。

数学者の秋山仁さんの言葉に「或る舟は東に進み、また他の舟は同じ風で西へ進む」とあります。風を推進力とする帆船は、帆の使い方次第で、順風であっても、逆風でも、自在な方向に進むことができます。その風が強ければ強いほど大きな推進力が生まれます。いま、皆さんは、薬学という方向に舳先を向けられました。吹く風を捉えて夢の実現に邁進して頂きたいと思っております。

医療を巡る社会では、薬剤師の資質と育成教育について議論されています。決して、順風というわけではありません。しかし、意見が厳しくとも、議論の対象になることは、円滑な医療、安心・安全な医療を提供するためにはなくてはならない重要な職業として捉えられていることの証です。

いまだ議論なかばではありますが、医療界から「臨床教育の充実・拡大」が要望されています。薬剤師の育成のために臨床教育を充実すべきことは言うまでもないことですが、単に臨床見学・実習を増やせばいいというものではありません。薬学部での教育は、化学、物理化学、生命科学などの基礎科学の重視という点で他の医療職の教育とは大きく異なります。病院であっても、薬局であっても、安全・安心な医療を提供するためには、職能の異なる

ロフェッショナルが、それぞれの職能を發揮して疾患の治療にあたることで円滑な診療につながります。それから考えますと、薬剤師は疾患の予防・治療に基礎科学を活かすことができるプロフェッショナルであるべきなのです。医療は経験則だけでは成り立ちません。医療行為の成果は、科学的根拠に基づいて評価されるべきであり、基礎科学なくして科学的根拠を得たり、吟味したりすることはできません。基礎科学を基盤に臨床を理解し、貢献できる職能を身につけること、これが臨床現場で求められる薬剤師であります。

本学の教育は、薬局や病院で医療に直接に貢献する薬剤師の育成に限ったものではなく、「薬剤師として」医療現場、企業、行政、大学、研究機関など、多岐に渡る領域で活躍する人材の育成にあります。入学当初より基礎科学の学修に励んで頂きたいと思っております。

大学院に入学された皆さんに申し上げます。本学の大学院は、安心・安全の医療に貢献する人材を育成するための6年制薬学を基盤としているということを忘れないで頂きたい。基礎科学研究であっても、その研究が医療にどう貢献するのか、常に考えて頂きたい。創薬に貢献すると安易に考えるのではなく、日々の研究を医療に活かすことができるのか、またそれにはどうすべきなのか、日々思索すること、これが6年制薬学を基盤にした大学院生に求められることです。

「基礎科学を基盤に」ということを述べてきました。医療人となるためにもうひとつ大切なことは、患者さんの心の動き、経済状態、家族関係など、つまり医療技術を越えたことを理解できるようになることです。年齢、性格、境遇などが様々な人が集って社会が構成されていることを経験することが将来につながります。職員のみならず、先輩や同級生との本学キャンパスでの交流から、社会は多様な人で構成されていることを学んで頂きたいと思っております。

最後に、十分な休みもとれぬ上に、根も葉もない誹謗中傷に耐えてCOVID-19患者の治療にあたっておられる医療界の方々の姿を忘れないで頂きたい。日々の行動制限を嘆くのではなく、歴史に残るパンデミックに遭遇し、医療人としてなにをなすべきかを学ぶ稀有の

機会が与えられたと考え、吹く風を捉えて目標に向かって力強く進み、本学の130有余年の歴史に新たな1頁を加えて頂きたいです。

皆さんの健康と充実した大学生活を祈念しまして、私の式辞と致します。京都薬科大学へのご入学おめでとうございます。

2021年4月1日

京都薬科大学長 後藤 直正